

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮北小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)自分の考えを持ち、かかわり合いを通して、学びを深めることができる資質・能力 (2)学びを自律することができる主体性・規律性・計画性
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)課題を解決する手立てを自分で選択し、ICTを効果的に活用しながら友達と協働する授業の実施【各単元の中で1回以上】 (2)単元の導入時に自らの学びについて計画を立て、終末時にはその学びを振り返り自己評価する時間の設定【単元初・単元末】

ざらざら(楕円)

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		↓
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語では「話すこと・聞くこと」を得意としており、特に話合いの文脈を捉える問題は平均正答率が7割以上と極めて良好である。一方、「自分の経験と結び付けた記述」は苦手としている。 ・算数では、「変化と関係」を得意としており、複雑な表の読み取りも非常に高い正答率であった。一方、算数の記述問題においては無解答率が高い点に課題がある。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	「かかわり合い」の基礎となる相手の意図を把握する力や、情報を整理・活用する力は高いレベルにある。これはICTを活用した協働学習の成果といえる。また、単元導入時に計画を立てるなど、意欲的に学習に取り組もうとする態度は定着しているが、実際の記述問題での無解答率の高さから、思考したことを粘り強く言語化するスキルには個人差がある。今後は単元末の振り返り等を通して、自分の考えの変容を具体的に言語化させ、「書く力」を定着させる指導が一層必要である。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	調査結果分析		中間評価
学力向上策の実施状況	評価(※)	学力向上策(1)・(2)ともに実施することができている。(2)については、本校の児童の課題解決に大きくかわかるため、特に指導を充実させていく必要がある。	
	B		
↓			
学力向上策の見直し	(変更なし)		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所